



伝えたい土木用語・技術

「土木技術者（～技術は人なり～）」

「われわれが死ぬときには、われわれが生まれたときより世の中を少なくともよくしていこうではないか」。明治生まれの土木技術者・青山士（あきら）という人は、ウィリアム・ハーシェル（英国の天文学者）による言葉を聞いて、土木の道に進む決心をしました。そして、東京帝国大学土木工学科を卒業すると、ひとり、アメリカに渡って、太平洋と大西洋をつなぐ大土木工事・パナマ運河の建設にチャレンジしたのです。そして、日本に帰国してから青山は、東京の荒川放水路工事で首都を洪水から守り、新潟の信濃川改修工事で越後平野を豊かな穀倉地帯に蘇らせました。青山は、それぞれの完成碑に「人類のため、国のため」と記しました。そんな青山が信条とした言葉が「技術は人なり」です。土木技術者の理想像を自分の生き方で示して、後世に残していったのです。

土木学会では、社会が関心をよせる土木技術の内容をわかりやすく解析します。本文の内容や知りたい言葉については、土木学会企画委員会 t-yama@jsce.or.jp までお寄せください。